

2010年05月07日

春の子ども劇場2010にご来場いただきありがとうございました

このたび始めました、劇団群馬中芸のブログです。

毎年5月のゴールデンウィークに本拠地の『あかぎ未来スタジオ』でお芝居を上演しています。

今年は5月3～5日の三日間、連日賑やかにお客さんが出かけてきてくださいました。

いつもながら学校の先生や桶川市のいなほ保育園のみなさんに支えていただきながら、あたたかな交流の場をつくることができ、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

みなさん、ありがとうございます。

あかぎ未来スタジオ



役者陣登場

2010年06月21日

ホームページを開設しました！

今日は夏至

午後7時半を過ぎても外はまだ明るいです

雲の切れ間が赤く染まり、とてもきれいな夕焼けが赤城山の麓から見られました

(写真はありません ご想像ください……)

ハシハシとはいきませんが、これから少しずつ何か発信できればいいなと思っています

ホームページもぜひご覧ください→ <https://www.gunmachugei.com/>

2010年06月30日

雷と豪雨

昨日の夕刻から激しい雨と‘どんどろさん’が赤城にもやって来ました！

山間部にいると、雷はおっかないご近所さんになります。昨夜も周りの雑木林や避雷針めがけていく筋も落っこちてきました。おかげでスタジオの電話がやられてしまい、今日の午前にかけて電話が使えない状態でした。(今は復旧しています)

朝、前橋市街から山へ登ってきましたら、こんなひとと一緒に連れて来てしまいました。



(ちょっとピンボケしています)

昨夜の雨で車のボンネットに振り落とされちゃったかな
かなりご立腹しているようです
人生初の大旅行をしたかまきりくん
うっすらきみどり色がかわいいですね
スタジオの草むらに放してあげました

2010年08月07日

梅干し作り

7月はよく晴れ、恵みの雨も時に激しく降りました。

少し遅い時期でしたが、今年も梅干しを作りました。

今年の寒かった春の影響でしょうか、梅の実が不作の地域が多かったと思います。

いつもどなたからか、梅の実をゴロゴロと沢山いただいていたのですが、期待しているうちに梅雨も終盤になってしまいました。もらえないと分かったと無性に作りたくなり、近くの産直売所で3キロほど梅をしぶしぶ購入しました。だいぶ柔らかくなったもので心配でしたが、1キロ300円くらいで買えるのは安い方だとおもいますよ、と納得させました。



スタジオのあんずの木



あんずもついでにジャムにしておきました。酸味を上手に抜くのはどうしたらいいのでしょうか。一度煮こぼすのでしょうか。いつも唾液腺を刺激する甘酸っぱいジャムになってしまいます。





梅白酢に漬ける期間が多少短めでしたが、塩漬けの梅を梅雨明けとともに外へ出しました。塩分10%。

3日目。



連日の猛暑、灼熱の太陽のおかげで梅干しも無事干しあがりました。



はやくまろやかに熟成してくれますように。

2010年08月07日

トカゲ救出！？

7月のとある朝。

猫が屋内にカナヘビを放った。

逃げまどうち、わざわざ流しの下のごキブリホイホイにかかってしまった・・・。

中を見てみると、憐れ捕らわれの身はカナヘビのほかにかマドウマー一匹。ゴキブリなんか一匹もかかっていない。

手足の自由を奪われたトカゲに気がついてしまった以上ミイラになるまで見過ごすことが出来ない。仕方なく、ゴキホイに捕まったトカゲの部分抜き型にして切り取り、なんとか救出してみることにした。

恐るべしゴキホイの粘着力！

ひとの指でもくっつけば剥がすのがたいへん！



憐れな姿。

紙を水でふやかして剥がし、ここまで取るのにひと苦労だった。

これでもまだ細かな粘着剤で手足がからめとられて動けない。

救出しているつもりだが、これはもしやして弱いものイジメの図か？との思いもわく。カメラを向けているのもおかしなものだ。

1時間後、ベタベタが大体取れた。

疲労困ぱいしてすぐ動き出せないカナヘビの無事を祈って、スタジオの藪のなかへ逃がしてあげた。

夕方、その場所にカナヘビの姿はなかった。

天敵のえさにならず、生き延びているといいのだけど。

どっちにしても、あまりいい思いではなかった。

その日の夕空。



2010年08月07日

徒然の日

赤城山の麓、富士見町は農業の元村。酪農家の家畜舎と畑、田んぼに通じる農道が多い。
そういう裏道を選ぶと市街地から目的地まで信号のある道をほとんど通らずに行くことができる。
これに慣れてしまうと、まちなかの渋滞や信号機待ちが耐えがたいものになってきてしまうので、とっても危険。
要注意。

出勤の道すがら、作物の成長を眺められるのはいいものです。



葱畑と隣りの田んぼの稲。同じみどりでもこんな柔らかな色合いの違いがキレイだ。

2010年08月29日
天災の怖い夏です

ドン ドロドロ ゴロゴロゴロ ガラガラッ ピシャッ！ ……ズザザザ ザァーッ！

8月の後半は夕暮れ前になると毎日のように大騒がせな音を響かせながら激しい雷雨が赤城山を襲いました。こういうときは‘どんどろさん’なんて愛情たっぷりに呼びたくはありません。

—雷神の怒髪 地を突く—といった感じです。

夕刻激しい雷で停電した日、電気の保安会社からスタジオに漏電警報が出ていると知らせを受けたことがありました。警報はすぐに消えたので、その時はなにも調査しませんでした。

お盆も明けた猛暑の日、舞台の稽古のためにホールの冷房を使おうとしたら、機械室の漏電ブレーカーが落ちていて空調の主電源スイッチが上がりなくなっていました。

すぐ電気保安会社に調べてもらったところ、浄化槽の主電源スイッチを切ると、ほかの機械は正常に作動することが分かり、冷房はすぐ使えるようになりました。

漏電しているのは浄化槽だと分かったので、保安会社の人と一緒に浄化槽の設置してあるスタジオの西側へ行ってみると、現場はたいへんなことになっていました！

西側の土手の一部から隣の畑の土が流れ込み、チョコレートのようにどろどろとした泥土がそこら中に5、6センチくらいの厚みになって積もっていました。

連日の激しい雨でお隣の作付けされなかった畑の柔らかい土がたっぷりと水を吸い、土手の一部から流れ込み、近くに設置してある浄化槽のモーターの中にも入り込んで、浄化槽が動かなくなってしまったのでした。

以前の漏電警報は、もしかしたら浄化槽の断末魔の悲鳴だったのかも知れないと思うと、もっと早くきがつかなければいけなかったのでは。

折しも毎月のスタジオ電気料が予想外に上がったばかりだったので、東京電力に落雷や漏電が原因で検針メーターの電力が上がることはないかと問い合わせしている時でした。通常そういったことで電力が消費されることはないとのことでした。

漏電ブレーカーは安全装置なのだから、危険領域になる前に作動して機械を止めておくものなのですね。

その翌日、浄化槽の管理会社の人に来てもらい土をスコップでかきだして調べてもらいましたが、機械は新しくした方がいいとのことでした。モーターを交換すれば直るかもしれないからということで、装置は修理に出しました。

電気料はスタジオなどの大きな施設は一般家庭とは違う電気量計算で料金が決まります。毎月毎月基本となる契約料金が検針結果に合わせて変動します。契約料金のほかに毎月の電気使用料も合わせて払わなければなりません。上がると一年間は据え置かれるので、電力数値をいかに上げないようにするかは弱小集団にとって死活問題です。

電気料金のことで同じようにお困りの方、いらっしやいませんか？

そして劇団員は、

じりじりと照りつける太陽の下、スコップで土を掘り、杭を打ち立て、せめてもの板塀をつくったのです。



ああ～、まるで強制連行で作業させられているようだ
ぼやく者あり
炎天下の肉体労働も芸の肥やしにせめてしようという、
懸命なる心がまえ(?)、なのでした。

2010年08月29日

長野原町西中学校で公演

8月25日。

久しぶりの学校公演です。

朝から気温はぐんぐん上昇して、猛暑の日です。

劇団が向かったのは吾妻郡長野原町の西中学校。

今日は2学期の二日目の日だそうです。

宮沢賢治の「なめとこ山の熊」を観たいと呼んでいただきました。

中学校でも生徒さんたちが演劇に取り組んでいるとのことで、イーハトーブの雪深い霧囲いの舞台世界を、真夏の日中に体育館のなかで、照明の熱にあおられて余計に温度上昇する中、汗を拭いながらとても熱心に観てくれました。

劇団員一同生徒さんたちの真摯な姿に心を打たれ、とてもうれしくなりました。

帰りには近くの畑でとれたとうもろこしを段ボールに三箱もお土産にいただきました。

思いがけずすばらしい機会となった西中学校のみなさん、本当にありがとうございました。

2010年09月14日

突然の枯れ

未来スタジオを囲む木々は、座付作者の中村欽一じいさんがそれぞれの由来を知り、大切に愛でている木々。その中のドングリから成長したマテバシイが、今年の夏、突然葉の先から枯れ始めました。

椎の木はとても丈夫で成長力のある木だそうですが、どうして枯れ始めたのか原因が分かりません。ちょうど地元の上毛新聞に、ナラの木が伝染性の菌にやられて、あちこちで枯れ始めているという記事が載りました。木の種類は違っても記事の写真の枯れ方が似ているので、同じ原因だったら難儀だなあと考えています。

スタジオ周辺は土壌の質が酸性に近いらしく、肥沃でないので、今までに色々な種類の木々を植え付けましたが、根付いたものは限られました。土質の合うものしか育たないようです。

それこそ代々の団員がみな収穫を楽しみに実のなる果樹をたくさん植えて来ましたが、幹が育っても結実するものは少なかったです。桃やプラム、姫りんご、すてきな桃源郷になるといいなというささやかな願いでした。そんな中一番大きく成長したのがマテバシイの木だったので、枯死してしまうなら、なんとも残念です。木の実はなかなかつけてくれませんでした。

よく見てみると、近くの木も似たように枯れている木もあるので、付近一帯に何かの原因があるようです。



2010年09月14日

公演準備

9月公演「秋の劇場 なめとこ山の熊」に向けて、稽古をしています。

このお芝居も長年来の師弟関係である演出のせらだひとしこと、中村欽一さんに稽古をつけてもらいます。

中村さんの演出は台本を丁寧に読み、役の内実を俳優が自分で考えて掴むことができるように、

とても詳細に指導してくれます。

スタジオでの稽古風景。



(これは「パナンペ ペナンペむかしがたり」の稽古風景です)



演出の中村さん

演出中は、甘いコーヒーとお菓子がお好みです。

お世話になっている演出家のみなさんそれぞれに稽古スタイルがあり、また飲み物や食べ物の好みも違うので、人をお迎えして舞台稽古をするのは、いろいろところで勉強になり、面白いところです。

公演中、スタジオのロビーでは書と篆刻の展示を行います。

篆刻(てんこく)ってご存知ですか。

漢文などの文字を構想して、版画のように石に彫り、朱肉で判を押す作品なのだそうです。

作品の創り手は、西川圭一さんという方です。

小学校の教師をされながら、書や民族舞踊の指導など、多岐にわたって文化活動されている方です。

展示準備においていただいた時、軽々とした身ぶり手ぶりで、とても分かりやすく、平仮名や漢字の歴史を教えてくださいました。

書は、難しい字体の文字を読もうとするよりも、楽譜をみて音楽のリズムを感じるのと同じように、文字の流れを眺めると楽しいですよと、教えていただきました。



廊下のギャラリーで西川さんの作品をご覧になれます。

文字の解説もついていますので、どなたでも分かりやすく、書を身近に触れることの出来る機会だと思います。

公演期間後もしばらく展示していますので、いつでもどうぞお気軽にお立ち寄りください。

2010年09月22日

秋の劇場「なめとこ山の熊」

9月18日・19日の秋の劇場「なめとこ山の熊」公演を終えました。

秋とはいえまだまだ残暑のつづく二日間でしたが、今公演も大勢の人々が県内外から足を運んでくださいました。お忙しい中、遠方から、また電車やバスを乗り継いでるばる赤城山までおいでくださった方々、誠にありがとうございます。

また、いつもスタジオ公演を賑わせてくれる埼玉県桶川市のいなほ保育園のみなさん、劇団員のお昼ご飯から打ち上げのご馳走、手作りお菓子などの大荷物を抱えて、公演のお手伝いに駆けつけてくださったお父さんお母さん達。いつも考えられないほどのご支援をいただき、劇団員一同心から感謝しています。

二日間あかぎ未来スタジオへお出かけくださった皆さん、ご協力いただいた皆さん、本当にありがとうございました。なにぶん小集団ですので、公演中至らないことばかりだったと思いますが、どうぞご容赦ください。

お芝居の感想など、劇団へお寄せください。



役者の髭おじさんが怖くてホールから出てきた子。



劇が終わるまでじっと待っていた健気なみほちゃん。



おいしそうな手作りの食べ物が並ぶロビーの
売店コーナー。



ちいさな子どもから大人まで、幅広い年齢の集う空間の中で演じられたなめとこ山の熊。

秋の劇場公演「なめとこ山の熊」をご観劇いただきありがとうございました。

これからも、役者それぞれが原作の言葉や役の内実を手さぐりで模索し続けてゆきます。

2010年10月08日

まきば保育園へ

劇団公演班は本日青森県へ向かいました。

青森市にあるまきば保育園のみなさんが、私たちの舞台「パナンペ ペナンペむかしがたり」をこどもたちに見せるために呼んでくださいました。

昨年の冬以来のみちのく公演です！

前回、保育園のみなさんが温かく迎えてくださった思い出の余熱がまだ心に残っているのに、またこんなに早く舞台でみなさんに再会出来るのがとても嬉しいです。

今日の早朝5時に赤城山を出発した公演班は、お昼頃に岩手県へ入りました。

東北道・花巻の先のSAでお昼休憩を取り、目的地まであと200キロ。

園舎に到着したら、明日の午前公演のため舞台設営をします。

もうひとふんばり！

その後宿舎へチェックインすることでしょう。

あしたがいい一日になりますように。

事務局留守番係より

2010年10月14日

青森のおみやげ

まきば保育園の公演を終えて、青森から無事戻ってまいりました。

公演の当日は曇り空でしたが、午前10時の舞台に近隣のひなた保育園というところの子どもたちや、親御さんたちも集まってくださって、和やかな雰囲気の中で絵本芝居「パナンペ ペナンペむかしがたり」を上演することが出来ました。

畑や牧場のある広大な土地のなかで、元気に育つ子どもたちの落ち着いて穏やかな雰囲気は、園長の山口さんのお人柄そのままのようだなあと、劇団員はしみじみと感じ入りました。

劇中のアイヌの踊りを、普段から子どもたちも踊っているのだそうですが、終演後にみんなで楽しく踊りました。

いささか役者の方が、小手先のようなことをやってはいけないと、気を張るような心持になっていたかも知れませんが。

舞台を片付けた後、広い敷地を散歩しました。

牧場には大切に世話をしている牛やポニーがいました。

栗や林檎やブルーンの林になった道のあちこちにいがぐりがぼとぼと落ちていて、よく肥った栗の実が詰まっています。果実は出荷しているそうです。

ご馳走になったお昼は、雑穀ごはんと沢山の美味しい野菜料理でした。それをいただきながら、いい環境の中で子どもたちがすくすくと育っているのだなあと、つくづく実感しました。

前日の舞台準備から、本番当日まで忙しい保育園運営の傍ら、私たちが温かく迎えてくださったまきば保育園の山口さんご夫婦をはじめ、みなさんにはたいへんお世話になりました。本当にありがたい感謝の気持ちで一杯です。

そして帰りのお土産にりんごと栗を沢山いただきました！



とてもいい香りのりんごと、とても味のいい甘い栗でした。また素敵な機会をいただき、心もぽかぽかと暖かくなりながら帰路につきました。

うれしいおまけ。

芝居の中の、パナンペじいさんが夢中で摘まんで食べる「コクワの実」の実物です！
山口さんから保育園に茂っているつるを少しいただきました！
これがさるなしともいうコクワのつる状の枝です！

手指の腹くらいの大きさの緑色の実が、熟すと甘くなっておいしくなるそうです。
劇団へ持ち帰り、吊るしておきました。
いやあ～、そのおいしいこと、という芝居の言葉に現実味がつくれそうです！



2010年10月15日

おくやみ

先日突然の訃報が劇団に届きました。

劇団の設立時から元代表の中村欽一らと共に、長年群馬中芸の舞台美術を手掛けてくださっていた小坂元二さんが急逝されました。今月の10日、77歳でした。

小坂さんは中学校の美術教師の傍ら、群馬中芸の第6回こども劇場作品「オキクルミと悪魔」、創立15周年・地域合同公演作品「草の碑(いしぶみ)」や20周年の同公演作品「赭い土(あかいつち)」など、劇団が学校教育の中に演劇鑑賞の取り組みを求めて、精力的に普及活動していた時代の仲間でした。

2005年に製作した舞台「なめとこ山の熊」は数十年ぶりの舞台美術として、清澄な挿絵を多数描いてくださいましたが、惜しくもこの舞台が小坂さんとの最後の舞台になってしまいました。

今秋の9月公演で、その「なめとこ山の熊」を再上演したことは、何か無関係ではないような気がしています。

小坂元二さんのご冥福を心からお祈りいたします。

長い間、ありがとうございました。



「なめとこ山の熊」 絵 小坂元二

2010年11月19日

冬支度

本日はそよ風にパラパラと落ち葉の舞う爽やかな秋晴れでした。



玄関を掃いても掃いても落ち葉が溜まるので、けやきやいちょうの葉が全部落ち切るまで待つことにしました。

赤城下ろしの空っ風が吹かない焚き火日和の日に落ち葉焚きをしようと思っています。

夏の間スタジオ周囲の土手を手入れしていなかったもので、大繁殖してしまった葛などのつるも刈らなければいけません。

玄関のお迎え役、二本のイチョウの木。



紅葉と落葉する時期がそれぞれ違うので、いつも不思議です。



玄関の柱の片方に、いつのまにか松の木が生えてきました。
両方あれば、お正月の立派な門松になりそうです。

スタジオの西側倉庫は、ねこ達の住処になっています。

いまのメンバーはふわふわした毛並みの母クロと娘2匹の3匹です。
(たまに家出した男どもがご飯をもとめてふらっと帰ってきます)



凍てつく冬に向けて、ねこドームを作ってあげました。
寒さにも鼻水たらして健気に耐えるたくましい彼女たちです。

可愛いんですよ！

劇団員はバレエ発表会の委託仕事、舞台美術の大道具製作をしていました。

2010年11月26日

冬支度その2

年末に向けて、大掃除をぼつぼつ始める頃になりました。
今日はスタジオ土手の草木の刈り込みにはまずまずの好天気でした。
数年間放置され、すっかり藪になってしまった北側の土手に着手します。

団員たちはチェーンソーや鋸で、荒地と格闘し始めました。

大根なみに太くなった葛の根があちこちから伸びあがって高木にからみついているので、枝下ろしも一苦勞です。





憎っき葛のつるをあの手この手で刈り取ろうとがんばる団員。

とその頃、スタジオの南側では猫たちがなにやら見つけてくくんしています。近寄ってみると、階段のところに鳥が斃れていました。



トラツグミです。

(めずらしいなあ、この辺りにもいたんだな)

スタジオは一面ガラス張りの建物なので、鳥が錯覚して窓にぶつかって来ることがあります。ショックで気絶したり、打ち処悪く死んでしまったりする鳥が稀にいます。今日のトラツグミは頸に噛まれたあとがあったので、獣にやられてしまったのでしょうか。もしかしてその獣はうちのネコか・・・



わたし知らないよー
といたげです。

可哀そうなツグミは西側の土手に埋めてあげました。



まったく猫の手も借りたいのに

北側草刈りも悪戦苦闘しながら、なんとか日暮れ前に終わりました。



とお～ってもさっぱりしました。
お隣さんには少々ご迷惑をお掛けしておりました・・・
あいすみません。

ふうーっ・・・とりあえず今日はここまで。

みんなでよくがんばったがんばったと褒め称えながらお茶を飲んで本日の業務終了です。